

駒ヶ根市文化財

名称	光前寺の仏涅槃図
種別	美術工芸品(絵画)
指定	市・有形民俗文化財(平成25・2・26)
所在地	赤穂29
所有者	光前寺
説明	<p>絹本着色 14～15世紀 縦171.6cm、横157.0cm</p> <p>涅槃図とは、釈迦の入滅の様子を描いた仏教絵画をさす。</p> <p>釈迦が入滅した場所と伝える北インド・クシナガラ郊外の跋提河のほとりの沙羅双樹の下を舞台に、巨軀の釈迦が横臥する。その周りには仏菩薩や悲嘆に暮れる仏弟子たちが参集し、その周りには動物たちが集まっている。さらに天界から釈迦の母である摩耶夫人らがはせ参じる様子が描かれる。</p> <p>本図には特記すべき特徴がいくつかあり、図像の独自性が伺われる。特に供養台を画面の左右に描くのは意図不明で類例もきわめて少ない。本図に最も近い特徴を持つのは永観堂禅林本(南北朝時代 重要文化財)である。このほか比較検討の材料として滋賀・正法寺本や滋賀・新知恩院本(いずれも重要文化財)あたりも挙げられよう。</p> <p>軸箱に延享元年(1744)に表装したと記されているが、類例と比較してみても明らかに本図は中世にさかのぼる作である。</p> <p>南信地域では、飯田市開善寺の釈迦八相涅槃図が重要文化財に指定されている。同本は通常の涅槃図と大きく図様を異にする八相涅槃図である点において希少性を有するが、本図はこれに次ぐ信州屈指の涅槃図の優品といっても過言でない。</p>



仏涅槃図